

# 保健保育科

系列	開講科目 英語表記	必修 選択	授業 形態	時間 数	単位 数	1年		2年		講義概要
						前期	後期	前期	後期	
教養科目	法学(日本国憲法) Law	必修	講義	30	(2)	30				法律の概要をもとに、特に国民として日本国憲法について規範的特質から人権尊重、権利及び義務について学習し、人の本質理解を促す。
	コミュニケーション技法 Communications Technique	〃	〃	30	(2)	30				社会人としてのビジネスマナーに必要なコミュニケーションスキルとマインドを学ぶ。自己表現法や会話の際の効果的なコミュニケーションの方法を体系的に理解する。
	情報科学 Information Science	〃	演習	60	(2)	30	30			Excel・Wordの基本を理解し、表・グラフ作成やデータベースを利用した文書の作成、プレゼンテーション用ソフトを用いた資料作成技術を習得する。
	コミュニケーション 英語 I Conversation I	〃	〃	30	(1)		30			国際社会の中、世界の共通言語として普及される英語を通じて、外国語を学ぶ。英語を用いて自己表現ができるようになることを目標とし、簡単なコミュニケーションを理解する。
	コミュニケーション 英語 II Conversation II	〃	〃	30	(1)			30		ネイティブの講師の授業を通じ、英語をより身近に感じるようになる。社会人として必要な英語力だけでなく、医療・福祉分野で使われる、英会話を理解する。
	体育講義 Physical Education	〃	講義	30	(1)	30				健康な身体を育むための基本的運動の理解をする。また、運動の重要性を学び、生涯運動を考える。保健の分野も学び、身体構造についても理解する。
	体育実技 Physical Education (Training)	〃	実技	30	(1)		30			軽運動を通じて、自らの健康維持の場とする。集団や個人スポーツを通じて、他者とのコミュニケーションを図る。生涯に亘り、取り組める趣味の幅を広げる。
保育の本質・目的の理解に関する科目	保育原理 Principle of Child Care	〃	講義	30	(2)	30				保育の意義及び目的と保育に関する法令及び制度の基本を理解する。また、子どもを取り巻く現状を踏まえて、子どもの最善の利益を考慮した保育のあり方や方法について保育所保育指針から理解する。
	教育原理 Principle of Education	〃	〃	30	(2)			30		教育の基本的概念、理論、歴史の理解から、教育の体系的知識を習得し、子ども家庭福祉との関連性を理解する。また、基本的な教育の実践、指導原理から、教育的思考や教育実践の取り組みについて習得する。
	子ども家庭福祉 Family Welfare for Children	〃	〃	30	(2)			30		子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を見直す事で、子どもの人権擁護をどのように捉えているのかを理解する。また、その理解に基づく様々な子ども家庭福祉のあり様について理解を深める。
	社会福祉 Social Welfare	〃	〃	30	(2)		30			現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について学び、直接援助にかかわる保育士として、子ども家庭支援の視点、相談援助について理解する。また、共生社会の実現と障害者施策について知識を得る。
	子ども家庭支援論 Family Support for Child-rearing	〃	〃	30	(2)			30		子育てに対する支援の意義と目的を理解し、保育の専門性を活かした支援の意義と役割について理解する。子育て家庭のニーズに応じた、多様な支援の展開と関係機関と連携できるように、現状や課題を理解する。
	社会的養護 I Principle of Education of Physically and Mentally Handicapped Children I	〃	〃	30	(2)		30			子どもの人権擁護に関連して、どのように社会的養護のあり方が変化してきたのか、守らなければならない倫理や責務を理解する。また、家庭養護と社会的養護の関係性を理解し、社会的養護の体系や専門職の関わり方について学ぶ。
	保育者論 Child Care Worker	〃	〃	30	(2)				30	保育者の役割と倫理、制度的な位置づけについて理解し、保護者の育児協働者として保育士の専門性について考察し、習得する。また、よりよい保育の展開や子育て支援のための職員間の連携や協働について理解する。
	国際保育概論 I Introduction to International Child Care I	選択 必修	演習	30	(1)				30	海外研修プログラムを通して、海外の幼児・児童教育制度と文化を学ぶ。海外の保育・教育・児童福祉に関する現場で実際に見学体験をする。外国、異文化の保育親や制度に触れ、保育領域の展望や課題について理解する。
	国際保育概論 II Introduction to International Child Care II	〃	〃	30	(1)				30	海外研修プログラムを通して、海外の幼児・児童教育制度と文化を学ぶ。日本における海外の保育実践現場で、実際に見学体験をする。外国、異文化の保育親や制度に触れ、保育領域の展望や課題について理解する。
人体の構造と機能 Structure and Function of Human Body	必修	講義	60	(4)	30	30			健康という概念の対極に病気が存在する。保育士として基本的に必要な医療と保健についての知識を深め、さまざまな疾患やその原因についても一般的な概念を幅広く理解する。	

# 保健保育科

系列	開講科目 英語表記	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1 年		2 年		講義概要
						前期	後期	前期	後期	
保育の 対象の 理解に 関する 科目	保育の心理学 Psychology of Child Care	必修	講義	30	(2)	30				保育の実践に関わる心理的発達理論を学び、子どもの発達を捉える視点を得る。また、乳幼児の子どもの学びを支える保育とはどのようなものであるかを知り、人との相互的にかかわりや体験、環境の意義を理解する。
	子どもの家庭支援の心理学 Psychology of Family Support for Child-rearing	〃	〃	30	(2)		30			生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、子どものみならず保育者を含めたライフコースについて考える事ができるようになる。また、生活・生育環境が子どもに影響を与えることや様々な家庭の考え方があることを理解する。
	子どもの理解と援助 Understanding of Child and Child-rearing Support	〃	演習	30	(1)			30		子どもの実態に応じた心身の発達や学びを把握するために、現場における事例を通じた学習を行う。また子どもを理解するための基本的な考え方、方法、それに伴う保育士の援助や態度の基本について学び、理解する。
	子どもの保健 Child Health	〃	講義	30	(2)	30				子どもの身体的な発育、発達について、身体機能・運動機能・生理機能から理解する。また、子どもの疾病と予防について理解することで、保育士が出来る適切な対応、多職種に連携を依頼する対応について学ぶ。
	子どもの食と栄養 Child Food and Nourishment	〃	演習	60	(2)			30	30	健康な生活の基本としての食生活の基本的知識を習得し、養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容を理解する。関連するガイドラインを踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
	子どもの疾病と予防 Childhood Disease and Prophylaxis	〃	講義	30	(2)				30	小児各期に起こりやすい症状・疾患の病態生理・治療・検査など、小児の疾患についての基礎的な知識を理解する。
	保育課題研究 Research on Child Care	〃	演習	60	(2)				60	総合演習である保育問題研究で調べたことを、他人に分かりやすく伝える能力を養う。また、より研究を深め福祉職としての自覚を養う。生涯学習の場とする。
保育の 内容・ 方法の 理解に 関する 科目	保育の計画と評価 Plan and Assessment of Child Care	〃	講義	30	(2)		30			全体的な計画と指導計画の作成における意義と方法を理解する。保育の計画では、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の改正と実際の子どもの理解を行う。他、実際の保育場面を想定した様々な指導案の立案を学ぶ。
	保育内容総論 Child Care Content Introduction	〃	演習	30	(1)	30				保育所保育指針における全体構達の関連と保育内容を理解する。また、子どもを取り巻く社会的背景を理解し、基本的な保育内容の考え方を子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて、展開できるようにする。
	保育表現 Child Expression	〃	〃	30	(1)	30				「保育所保育指針」の表現領域を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、子どもの表現活動に関わる上で、子どもの発達過程に即した保育の過程を理解し、配慮や展開の方法について演習を通して学ぶ。
	言葉 Language	〃	〃	30	(1)		30			「保育所保育指針」の言葉領域を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、子どもの言葉の特徴や機能について理解し、子どもの発達過程に即した保育の過程を理解し、指導・援助の方法を実践を通じ具体的に学ぶ。
	人間関係 Human Relation	〃	〃	30	(1)		30			「保育所保育指針」の人間関係領域を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、自ら人と関わる力を子どもに養うためのねらいを明らかにし、身につけることが望まれる内容を子どもの発達過程に即して理解する。
	健康 Health	〃	〃	30	(1)		30			「保育所保育指針」の健康領域を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。心身に健康な乳幼児期の姿・発達の実態を学ぶ。他、子どもの発達過程に即した子どもが自ら健康を考えるための保育展開の仕方について、演習を通して学習する。
	環境 Environment	〃	〃	30	(1)		30			「保育所保育指針」の環境領域を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、幼児が幼児期ならではの生活の中で出会う自然現象や社会現象などについて、実際に体験しながら理解を深め、子どもの発達過程に即した必要な配慮すべき事項を習得する。
	音楽 I Music I	〃	〃	60	(2)	30	30			基礎的な音楽理論を理解し、保育現場における子どもの生活と遊びにおける体験に必要な基礎的演奏及び表現の知識と技術を理解する。また、環境構成及び具体的展開の技術を実践的に習得する。
	造形 I Molding Art I	〃	〃	30	(1)	30				子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な幼児造形教育の基本的理解をもとに、子どもの身体の発達過程とその年齢における描画的特長を理解する。また、子どもへの造形活動を促し、サポートする方法を習得する。
	幼児体育 Physical Education for Children	〃	〃	30	(1)			30		子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助にかかわる理解と知識及び技術をもとに運動遊びの意義と重要性を理解する。その上で、運動遊びの指導計画の基礎についても学習する。

# 保健保育科

系列	開講科目 英語表記	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1 年		2 年		講義概要
						前期	後期	前期	後期	
保育の 内容・ 方法に 関する 科目	乳児保育 I Infant Care I	必修	講義	30	(2)	30				乳児保育の理念と歴史的要因・役割を基礎とし3歳未満児の発育・発達をおさえる。その上で、保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。また、乳児保育に関する職員間の連携や共同について理解する。
	乳児保育 II Infant Care II	〃	演習	30	(1)		30			3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた上での生活や遊びと保育の方法及び環境へのアプローチを学ぶ。また、養護と教育の一体性を踏まえた配慮の実践についても学習した上で、指導計画を作成し、具体的な理解を深める。
	子どもの健康と安全 Safty and Healthcare Management for Children	〃	〃	30	(1)	30				子どもの身体的発育・発達等、子どもの保健で学んだ理解をもとに、保育現場で行われている個別及び集団への健康及び安全の管理について学ぶ。特に衛生管理と感染症対策、応急処置、アレルギー対応は実践を通して理解する。
	障害児保育 Care for Child with Special Needs	〃	〃	60	(2)			30	30	障害児保育を支える基本や理念を学び、地域社会への参加やインクルージョンについて理解する。また、様々な障害の理解と障害児個々の発達を留意した援助の具体的な方法について学び、家庭への支援方法や関連機関との連携についても理解する。
	社会的養護 II Content of Social Protection II	〃	〃	30	(1)			30		養護の体系を学んだ社会的養護 I の学習を踏まえ、家庭養護と施設養護の生活特性と実際について、事例を通して理解を深める。また、アセスメントと個別支援計画の作成についても事例分析を通して理解する。
	子育て支援 Support for child- rearing	〃	〃	30	(1)				30	保育士が行う子育て支援の範囲と意義について理解した上で、実践事例を通じた援助の実際を理解する。また、個別のニーズを有する子どもやその家族、地域の子育て支援家庭に対する援助について保育士の基本的姿勢を理解する。
	事前実習指導 Prior Practice Guidance	〃	〃	30	(1)	30				現場実習に向けての心構えや実習とは何かを学び、よりよく実習を成功させるためにはどうするかを学ぶ。また、実習日誌の記載方法や実習に関する決まりなどを確認し身に付ける。
	音楽 II Music II	〃	〃	30	(1)			30		保育表現内容の能力をもとに、特にピアノでの演奏、弾き歌い、編曲、新曲視唱のレベル向上をはかる。保育現場での音楽的な適応力を身につける。
	音楽 III Music III	〃	〃	30	(1)				30	子どもへの歌唱指導に必要な技術や表現方法を学び、表現豊かな歌唱ができる力を身につける。
	造形 II Molding Art II	〃	〃	60	(2)		30	30		子どもの身体の発達の過程と年齢における描画の特徴を理解し、造形活動を促しサポートする技法を学習する。また、自らの作品を創り上げていく過程において、創意工夫の実践的感覚と理論的側面を養う。
造形 III Molding Art III	〃	〃	30	(1)				30	自らの作品を創り上げていく過程において、平面表現や紙の造形、粘土造形、布や木工などの材料や技法を学び、造形的構成力を育成する創意工夫の実践的感覚と理論的側面を養う。	
保育実習	保育実習 I (保育所) Child Care Practice I	〃	実習	80	(2)		80			保育実習指導での目的、意義、内容理解を明確にし、保育所において乳幼児の理解を深めるとともに、現場の機能と保育士の職務について学習する。
	保育実習 I (施設) Child Care Practice I	〃	〃	80	(2)			80		保育実習指導での目的、意義、内容理解を明確にし、居住型児童福祉施設において乳幼児や児童の理解を深めるとともに、現場の機能と保育士の職務について学習する。
	保育実習指導 I Child Care Practice Guidance I	〃	演習	60	(2)	30	30			保育実習の目的、意義、内容について理解を深め、より主体的、効果的に実習を行うための基本知識の習得と実習の心構えを身につける。実習後は、実習での評価反省をもとに学習課題の設定も行う。
	保育実習 II Child Care Practice II	選択 必修	実習	80	(2)			80		保育実習 I (保育所) で学んだことを活かし、自らが保育者として、子どもたちの生活の中での日案を考え、実践できるようになる。また、自らの保育者像を明確にする。
	保育実習指導 II Child Care Practice Guidance II	〃	演習	30	(1)			30		保育実習 I (保育所) での評価反省をもとに学習課題の設定を行い、一人ひとりが前回より主体的、効果的に実習を行うための計画を立て実習に備える。

# 保健保育科

系列	開講科目 英語表記	必修 選択	授業 形態	時間 数	単 位 数	1 年		2 年		講義概要
						前期	後期	前期	後期	
保育 実習	保育実習Ⅲ Child Care Practice Ⅲ	選 択 必 修	実 習	80	(2)				80	保育実習Ⅰ（施設）で学んだことを活かし、自らが保育者として、入所者の生活の中での日案を考え、実践できるようになる。また、自らの保育者像を明確にする。
	保育実習指導Ⅲ Child Care Practice Guidance Ⅲ	〃	演 習	30	(1)				30	保育実習Ⅰ（施設）での評価反省をもとに学習課題の設定を行い、一人ひとりが前回より主体的、効果的に実習を行うための計画を立て実習に備える。
総合 演習	保育実践演習 Workshop	必 修	〃	60	(2)			60		保育に関する基本的な課題について、多角的に考察し、総合的、実践的に問題解決していく能力を養う。各自のテーマを設定・研究する過程において、自発的能力も習得する。
本校 独自 開講 科目	滋慶選択科目 Jikei Elective	〃	講 義	30	(2)	30				約20科目の中から、自ら興味のある分野を選び、知識・技術を修得する。自らの教養を広げるだけでなく、他学科の人間との交流により、見聞を広める。
	就職対策講座 Preparation for Job Interview	〃	演 習	30	(1)		30			社会人、職業人としての基礎（面接・試験対策・自己PR・心構え等）を学習し、保育士としてのキャリアデザインを描く。
	地域ボランティア活動 Regional Volunteer Work	〃	〃	45	(1)	45				地域における子育ての現場、児童福祉関係施設または、高齢者施設など地域において、社会貢献に関する奉仕活動を行う。また、それらから地域社会において多様機関との連携についても学習する。
	幼児教育特講Ⅰ Special Lecture on Early Childhood Education I	選 択 必 修	〃	60	(2)			60		幼児期は、遊びや生活を通して、経験・考えることで豊かな感性が育つとともに、学習態度の基本になる人間形成の土台を作っておくことも重要である。その為に必要な適当な環境となる知識や技術を学び、身につける。
	幼児教育特講Ⅱ Special Lecture on Early Childhood Education II	〃	〃	60	(2)			60		可能性が高い子どもたちが持つ生きる力・学ぶ力を引き出していくように取り組める保育者像について、幼児教育特講Ⅰで理解した知識や技術を活かし、保育実践や展開の方法の演習を通して、身につける。
	保育技術特講Ⅰ Special Lecture on Child-rearing skill I	〃	〃	60	(2)			60		現代社会における家族や親子の置かれた様々な状況により、保護者が求める保育のあり方も多様化し、保育者は様々な保育技術を必要とされている。それぞれのニーズに対応した保育技術の知識や技術を身につける。
	保育技術特講Ⅱ Special Lecture on Child-rearing skill II	〃	〃	60	(2)			60		近年、求められている子どもたちに必要な多様な保育を実践出来る保育者を目指す。保育技術特講Ⅰで理解した知識や技術を活かし、様々な保育のニーズやサービスに合った保育実践や展開の方法の演習を通して身につける。
	健康管理特講Ⅰ Health Care I	〃	〃	30	(1)			30		健康の定義、健康増進の三原則と阻害要因、施策、健康管理の考え方とその方法について学習し、健康問題に関する基本知識と見方・考え方を身につける。
	健康管理特講Ⅱ Health Care II	〃	〃	30	(1)			30		健康体力に用いられる各種検査・測定の知識と技術を身につけ、保育士として、子どもの健全育成の推進に寄与する能力の養成を目指し、また社会生活上での様々な環境因子の安全管理について学習する。
	生活習慣病 Lifestyle Related Disease	〃	〃	30	(1)			30		健康増進、発病予防の一次予防としての健康観を生産にわたり啓蒙していく必要性から、生活習慣病について理解し、日常生活習慣から健康予防に留意する知識を身につける。
運動プログラム Exercise Program	〃	〃	30	(1)			30		健康状態を維持する上での予防知識を学習する。特に日常動作から運動にいたるまでの身体活動が、健康の維持増進に効果的であることを理解し、保育者としての健康観を身につける。	
総時間数				2525	(99)	525	590	650	760	
幼児教育専攻				2145	(87)	525	590	530	500	
保育技術専攻				2145	(87)	525	590	530	500	
健康管理士専攻				2145	(87)	525	590	530	500	